
エルフの王子と女子高生(仮)

幸野

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

エルフの王子と女子高生（仮）

【Nコード】

N8587Z

【作者名】

幸野

【あらすじ】

VRMMORPG『ユグドラシル・ウイング世界樹の翼』内で、警備とバグ確認のバイトをすることになった女子高生のお話。閉じこめられやデス・ゲームなどなくまったりと日常とちょっとつつすらラブ話中心。作者はPCもMMOもよく知らないので、そのへんはかなり適当です。あしからず。

楽しい夏休み

長期休暇前のテストも終わり、夏休みまで残り数日。七月半ばを迎え、ますます陽光は強まり、じりじりと鉄筋コンクリートの校舎の表面を焦がす中、教室内では昼休みを迎えていた。

文武両道を校訓に掲げたこの学校は、生徒が勉学と武道に集中できるように、特別な空調を備えているので、校舎内は快適な気温に保たれている。そのため、教室内の生徒たちは茹だるような暑さを感じることなく、家から持ってきた手作り弁当や、購買部で買ったパンなど思い思いの昼食を食べ、楽しく雑談していた。

話題はやはり、目前に迫った夏休みの予定についてが大半で、その予定通りに出来る、出来ないは置いておいて、大いに盛り上がっている。何事も”祭りの前”……あれやこれやと準備や構想をするのが一番楽しいものだ。高校受験という難関を乗り越え入学した高校の初めての夏休みというのも相まって、昼食や菓子、飲み物そっこのけで話に熱中している男子もいる。

そんな気候とは別の熱に浮かされている教室の一角。机を四つくっつけ、小学校の給食時間よろしくグループになってお昼を楽しんでいる女子たちの中に、白峰葵（しらみねあおい）はいた。

外見は髪を短くしたボーイッシュな感じの女の子という以外、特筆すべきことのないごくごく普通の女子高生たる彼女だが、中身はその自覚なく特殊なところがある。それは ……。

「ねえ、葵ちゃん。葵ちゃんは、その……夏休みどうするの？」

「バイトする。あ、もちろん、VRの夏期講習は受けるけどね。それ以外はみっちりバイトするつもり」

「ええ！じゃあ、海とか山とか遊園地とか、一緒に遊べないの？」

「ごめんね？初花^{ういか}。遊ぶにもお金がいるでしょ？生活費カツカツだから、遊ぶ余裕なくなつてさ。じつちゃんのコネで実りの大きいバイト紹介して貰えたから、冬休みは多分遊べると思う。それで許して貰えないかな？」

「じゃあ、クリスマス・イブは私と一緒に過ごしてくれる？」

「私はいいけど、山県^{やまがた}くんはいいの？」

「いいのいいの。なんか文句言ってきたら、ソッコー別れるから」

「……それはあんまりじゃないかな……」

さらりと言われたヒドい言葉に、葵は苦笑を浮かべるが、初花は聞いていない。葵の左腕にべったりくっつき、夏休みをすつ飛ばして冬休みの予定を立て始める。…と、そんな感じに葵には同性にモテるスキルが備わっているのだ。

しかし彼女は、彼女を育ててくれた孤児院の住職^{じゆうし}から、『弱きを守り、強きを挫く』精神を叩き込まれていたので、そのスキルによりもたらされる災難を回避しようとは思わない。華麗に解決することによって、ますます同性に好かれることになっていたとしても……。

「それで……何のバイトをするんですか？葵さん」

初花が夢見る乙女の世界に旅立ち、反応を返さなくなったところで、見るからに委員長タイプといった感じの女子（実際にクラス委員長）
、たがみえいこ田上詠子が話を進める。

「身入りがいいんだったら、アタシもそのバイトやりたいんだけど、それって人数制限あんの？」

次いで、制服を着くずし、腰まである長い髪をキャラメル色に染め、粗野な感じに喋る、少しばかり不良入った柊美緒ひいらぎみおも話に加わった。

見事にバラバラなタイプの女子が、何故か意気投合して出来上がったこの四人グループは、若干……いや、かなり、クラスどころか学校や街でも浮いていたが、本人たちは全く気にしていない。

「面接受けまくらないと駄目だったから無理だと思う」

「コネなのにそれって、相当難関のバイトだな。人気職なのか？」

「一部の人には相当人気のバイト……かな？私、一回もプレイしたことないから分かんないけど……」

「プレイ？」

聞き捨てならないとばかりに違う世界に旅立っていた初花が戻ってきたが、呆れた美緒が「違う」とチョップをかまし、葵はまたもや苦笑を浮かべる。

「VRMMO『世界樹の翼』ユグドラシル・ウイングって知ってる？」

「中級レベルのゲームで、上級者にはやや物足りないって言われているあのゲームのことですか？」

「たぶんそれ。その中での警備員兼バグ確認のバイト」

「マジか?!メツチャ楽しそう!」

「人手不足だけど滅多な人は入れられないから、適正検査とさつき言った面接がいっぱいあって、ようやく合格貰えた。警備員とバグ確認以外もそのうち臨機応変にやって貰うって言ってたから、ゲーム楽しむ暇はないかもだよ?」

「そうか…あー、でも、グラフィックとか、NPCの反応とか、他の追随を許さないくらいスゲエらしいじゃん。タダで中に入れるだけでも羨ましいぞ!」

「美緒がそんなにゲーム好きとは知らなかった」

「じぶんくらいは普通だろ?」

「まあ、そうですね。一般的な情報とそれ相応の好奇心です」

VRMMOとは、仮想世界に意識をダイブさせ、仮想世界の自分の分身であるアバターになることにより、仮想世界を体感出来るシステムをゲームに利用した 多人数参加型バーチャルリアティールゲームのことだ。2D、3Dを経てVRを可能にした科学の進歩により、ゲーム産業は爆発的に発展。今では一部の落ち物系パズルやマニア向けゲーム以外は、VRMMOが主流、一般的になっている。

そんな中、R・ラファエル社が開発、発表したVRMMORPG『ユゲドラシル・ウイング世界樹の翼』は、初めてVRMMOに触れる初心者向けに作られた、中堅RPGゲームである。

新規登録、ログインするまではもちろん、ログインしてから一週間ほどは、ラビというウサギのナビゲーターがサポートしてくれる安心設定で、必要であればサポート延長も出来、必要なければ最初からサポートを断ることも出来る。

また、ゲームを始める前に、イージー（簡単）、ノーマル（普通）、デンジヤラス（難しい）と、三タイプからプレイモードを選び、さらにはイベントのシナリオを有名映画脚本家を書くことにより、ある程度MMOをやり込んだことがあるプレイヤーもそこそこ楽しめる作りになっているのだ。

「そんなに有名なゲームだったのか。どうりで競争率激しいはずだよ……」

『世界樹の翼』についての一般常識的説明を、情報通の詠子から一

通り聞いた葵は、適性検査や幾度となく繰り返された面接を思い出し、深々と溜息を吐いた。

誰もが知っている有名なVRMMORPGを葵が知らなかったのはとても単純な理由で、先ほど彼女自身が言った通り、生活費もカツカツになるほど余裕のない暮らしぶりだからだ。

生活費に支障をきたすほどの貧乏っぷりなのだから、完全なる娯楽であるゲームをする余裕などあるわけもなく、当然、ゲームに関する情報が耳に入るわけがない。

それどころか、葵は、この文明の進んだ情報社会の中で生きているというのに、PCも携帯電話もテレビもラジオも持っていない。そんな彼女のニュースソースになり得るのは、夕方入っている飲食店のバイトの休憩中に目を通す、テレビと新聞。

イマドキの女子高生としては、まったくもってありえない体たらくなのだった。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能たんのうしてください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n8587z/>

エルフの王子と女子高生(仮)

2011年12月27日00時52分発行